

Rainger FX



Deep Space Pulsar

取扱説明書

(株) アンブレラカンパニー

www.umbrella-company.jp

* この取扱説明書は株式会社アンブレラカンパニーが正規に販売する製品専用のオリジナル制作物です。
無断での利用、配布、複製などを固く禁じます。

Rainger FX Deep Sapace Pulsar

Rainger FX のユニークなエフェクト、Deep Space Pulsar をご購入いただきありがとうございます！

ロックミュージックでのベースドラムで他の楽器をコンプレッションする手法、ダブステップやテクノで聴かれるリバースアタックサウンド、キックドラムにメロディを追従させるハウスミュージックでのテクニックなど、多くのレコーディングでサイドチェインエフェクトは用いられてきました。しかしこのテクニックはレコーディング後のミックスなどポスト・プロダクションや、複雑にセットアップされたコンプレッサーを使ったライブ処理のみに限定されていました。

Deep Space Pulsar を使えばそのようなエフェクトをリアルタイムに、かつシンプルでコントローラブルに実現が可能です。

CONTROLS

DIP: トリガーするときどれだけ音量を下げるかを設定します。

REL: エフェクトのリリース（ダッキングした音量がもどる速度）を設定します。バスドラムに追従させたい場合、素早い音量の戻りが最適なためこのノブは低く設定します。高く設定すると音量が戻るまで時間がかかるようになり、逆再生のようなエフェクトになります。

Main Footswitch: ペダルのオンオフを切り替えるフットスイッチです。（トゥルーバイパス）

INV: ペダルのダッキング動作を反転させます。トリガーが入力されるまでペダルは音量をダッキングし、トリガーが入力されるとシグナルを通常の音量へ戻します。

PAD: マイク入力へより強いフィルターを適用します。マイクの感度が強すぎて、キックだけでなくスネアでもペダルがトリガーされてしまう場合などに有効です。

Record LED: Igor を使ってタップテンポを入力する際、1 回目のタップが入力されるとこの LED が点灯します。2 回目のタップを入力してタップテンポを設定します。

LEDs: 音量のダッキング量、リリースを LED で視認できます。

Igor :

感圧式パッドを搭載したユニークなコントローラーです。Igor はどちらの面を表にするかで、2つの感度を設定できます。Igor のロゴがある硬い面を上にするると、操作に強い入力が必要になります。床に置いて足で操作するのに最適です。黒いパッド面を上にするると感度が高くなり手での操作が可能になります。

ペダル上部のジャックへ接続すると、Igor でタップテンポを入力できるようになります。2回押すとタップテンポを設定し、ダッキングがそのテンポでトリガーされます。更に2回押すと新たなテンポで上書きします。1秒以上長押しするとテンポを消去します。



Microphone :

Igor を接続するソケットへ同梱されているマイクを接続すると、マイクの入力でペダルをトリガーできます。例えばスタジオでドラムのキック内へマイクを配置すれば、キックにダッキングを同期させてうねりのあるリズムを実現できます。マイクはタップテンポを上書きし新しいトリガーになります。



ABOUT THE TAP TEMPO

Deep Space Pulsar はタップテンポを搭載することで更に実用的なペダルになっています。耳でリズムを聴いてシンクさせられるので、微妙なテンポチェンジにも追従できます。ペダルがオフになっているときでもタップテンポを入力できます。

NOTE

- ・スタンダードな 9V センターマイナスの電源アダプターで動作します。電池は使用できません。
- ・トゥルーバイパス



追補：サイドチェインとは？

本機におけるサイドチェインとは、「エフェクトを外部の信号でトリガーし、その信号でエフェクトをコントロールする」テクニックのことを指します。例えばキックドラムでトリガーすることで、キックが鳴る瞬間にコントロールを有効にして音量を下げる、といった手法が代表的です。キックが鳴る瞬間にだけエフェクトが掛けられるので、のっぺりと単調に聴こえるサウンドにキックの音に同期したビートを与えるような効果になります。

このテクニックはレコーディングにおいては定番で、ミックスの際に多用されてきた手法です。例えばテクノやEDM、フィルターハウスといったクラブミュージックでは、多重に重ねたシンセフレーズと迫力あるキックのビート、そのどちらも埋もれさせることなく表現するためにサイドチェインが使われてきました。4つ打ちのキックが鳴る瞬間にフレーズの音量を下げることで、どちらも同居させつつ弾むように活きた特徴的なリズムをトラック全体で実現しています。またサンプリングしたフレーズをリズムに合わせてダッキングして、生演奏のような息づくグルーブを再現するためにも用いられます。

ポップスやロックミュージックでも多く用いられる手法で、例えばベースやリズムギターをキックドラムにサイドチェインさせることで、ダイナミックかつ生々しいアンサンブルを実現することが出来ます。

例えば The Beatles は、Tomorrow Never Knows のサウンドにサイドチェインを導入しています。曲中はシンバルの音が引き伸ばされ霧のように空間を埋めていますが、キックとスネアに合わせてそのシンバルが途切れています。これによりリズムにキレが加わり、緊張感のあるサウンドを後押ししていると言えるでしょう。また My Bloody Valentine も Soon などの楽曲でサイドチェインでのダッキングを用いることで、リズムに独特なグルーブを付加しています。

このように特定の音を目立たせるように、音量を下げることを「ダッキング」と呼びます。

*追補文章 by アンブレラカンパニー

